



エンタープライズ グループ

- [エンタープライズ グループ, 1 ページ](#)
- [エンタープライズ グループ導入モデル, 2 ページ](#)
- [エンタープライズ グループの設定タスク フロー, 4 ページ](#)
- [エンタープライズ グループの制限事項, 10 ページ](#)

エンタープライズ グループ

Cisco Jabber ユーザは Microsoft Active Directory のエンタープライズ グループおよびセキュリティ グループを検索して、自分の連絡先リストに追加できます。連絡先リストに既に追加されているグループが更新された場合は、連絡先リストが自動的に更新されます。Cisco Unified Communications Manager のデータベースは、指定された間隔で Microsoft Active Directory グループと同期されます。Cisco Unified Communications Manager とグループが同期される間隔は、[LDAP ディレクトリ の設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウの [LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)] パラメータで決定します。

現在、エンタープライズグループ機能は Microsoft Active Directory サーバでのみサポートされています。Active Directory ライトウェイトディレクトリ サービス (AD LDS) またはその他の社内ディレクトリではサポートされません。

エンタープライズグループ機能が有効な状態で、Cisco Jabber ユーザがグループを連絡先リストに追加する場合、Cisco Jabber クライアントは IM and Presence サービス ノードにグループ要求を送信します。IM and Presence サービス ノードは各グループ メンバーに関する次の情報を提供します。

- [表示名 (Display Name)]
- ユーザ ID (User ID)
- 役職 (Title)
- 電話番号 (Phone number)
- メール ID (Mail ID)



(注) IM and Presence サービス ノードに割り当てられているグループ メンバーのみを、連絡先リストに追加できます。他のグループ メンバは廃棄されます。

エンタープライズグループ機能を無効にすると、Cisco Jabber ユーザは、Microsoft Active Directory グループを検索したり、自分の連絡先リストに追加済みのグループを表示したりできません。ユーザがログイン中にエンタープライズグループ機能を無効にすると、そのユーザがログアウトするまでグループは表示されます。ユーザが再度ログインすると、グループは表示されません。

許可されるエントリの最大数

連絡先リストで許可されるエントリの最大数は、連絡先リストのエントリ数と連絡先リストに追加されているグループのエントリ数の合計です。

連絡先リストの最大エントリ = (連絡先リストのエントリ数) + (グループのエントリ数)

エンタープライズグループ機能を有効にすると、Cisco Jabber ユーザは、連絡先リストのエントリ数が許可される最大数に達していない場合、連絡先リストにグループを追加できます。機能が無効な状態でエントリ数が許可される最大数を超えた場合、機能が有効になるまでエントリ数は制限されません。この機能を有効にした後もユーザがログインしたままの場合、エラーメッセージは表示されません。ユーザがログアウトした後に再度ログインすると、超過しているエントリをクリアするように求めるエラーメッセージが表示されます。

セキュリティ グループ

エンタープライズグループに加え、Cisco Jabber ユーザは、セキュリティグループを検索し、連絡先リストに追加できます。この機能を設定するには、管理者がカスタマイズした LDAP フィルタを設定し、設定された LDAP ディレクトリの同期に適用する必要があります。

関連トピック

[ユーザ グループの表示](#), (6 ページ)

エンタープライズグループ導入モデル

エンタープライズグループ機能は、次の2つの導入オプションを提供します。



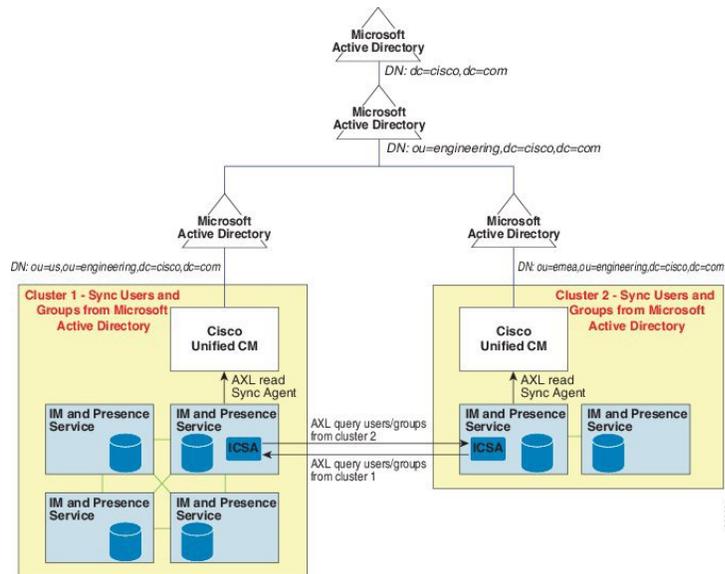
重要

Cisco Intercluster Sync Agent サービス経由でデータを同期する前に、クラスタ 1 とクラスタ 2 に、UserGroup レコード、UserGroupMember レコード、UserGroupWatcherList レコードの一意のセットが含まれていることを確認します。両方のクラスタにレコードの一意のセットが含まれている場合、同期後には両方のクラスタにすべてのレコードのスーパーセットが含まれています。

エンタープライズ グループ導入モデル 1

この導入モデルでは、クラスタ 1 とクラスタ 2 が Microsoft Active Directory からの異なるユーザとグループのサブセットを同期します。Cisco Intercluster Sync Agent サービスは、データをクラスタ 2 からクラスタ 1 に複製して、ユーザとグループの完全なデータベースを作成します。

図 1: エンタープライズ グループ導入モデル 1



エンタープライズ グループ導入モデル 2

この導入モデルでは、クラスタ 1 が Microsoft Active Directory からのすべてのユーザとグループを同期します。クラスタ 2 は、Microsoft Active Directory からのユーザのみを同期します。Cisco Intercluster Sync Agent サービスは、グループ情報をクラスタ 1 からクラスタ 2 に複製します。



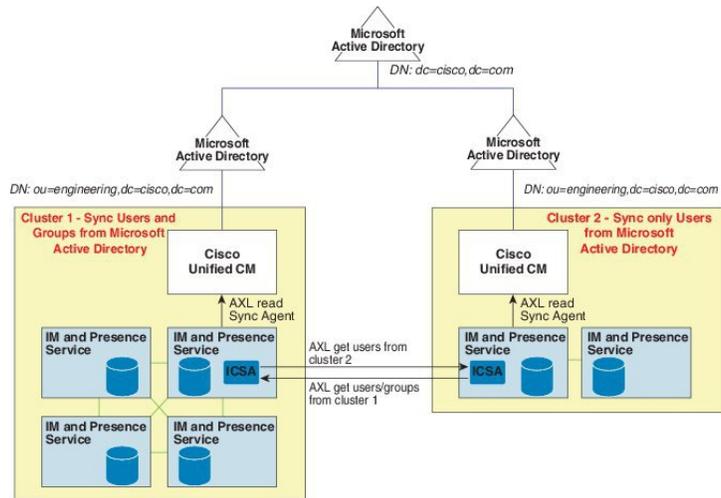
注意

この導入モデルを使用する場合は、1つのクラスタ内のグループデータだけが同期されていることを確認します。そうでない場合は、エンタープライズグループ機能が想定どおりに機能しません。

[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]> [プレゼンス (Presence)]> [クラスタ間設定 (Inter-Clustering)] ウィンドウで設定を確認できます。

クラスタ間ピア テーブルで [エンタープライズグループ LDAP 設定 (Enterprise Groups LDAP Configuration)] パラメータのステータスを確認します。[矛盾は見つかりませんでした (No conflict found)] は、ピア間に設定ミスがないことを意味します。矛盾が見つかった場合は、[エンタープライズグループの矛盾 (Enterprise GroupConflicts)] リンクをクリックして、表示された [詳細 (details)] ボタンをクリックします。これにより、レポート ウィンドウが開いて、詳細なレポートが表示されます。

図 2: エンタープライズグループ導入モデル 2



エンタープライズグループの設定タスクフロー

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---------------------------|--|
| ステップ 1 | エンタープライズグループの有効化, (5 ページ) | Cisco Jabber ユーザが Microsoft Active Directory のグループを検索して自分の連絡先リストに追加できるようにするには、次のタスクを実行します。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|-------------------------|---|
| ステップ 2 | ユーザグループの表示, (6 ページ) | (任意) Cisco Unified Communications Manager データベースと同期している Microsoft Active Directory ユーザグループを表示します。 |
| ステップ 3 | セキュリティグループの有効化, (7 ページ) | (任意) Cisco Jabber ユーザがセキュリティグループを検索して自分の連絡先リストに追加できるようにするには、次のタスクフローを完了します。 |

エンタープライズグループの有効化

[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameter Configuration)] ウィンドウにある [Cisco IM and Presence でのディレクトリグループの操作 (Directory Group Operations on Cisco IM and Presence)] エンタープライズパラメータを使用することによって、エンタープライズグループ機能を有効化または無効化できます。エンタープライズグループ機能を有効にするには、次の手順を実行します。

はじめる前に

Cisco DirSync サービスが有効になっていることを確認します。サービスの有効化の方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。
[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ユーザ管理パラメータ (User Management Parameters)] セクションにある [Cisco IM and Presence でのディレクトリグループの操作 (Directory Group Operations on Cisco IM and Presence)] のドロップダウンリストから、[有効化 (Enabled)] を選択します。
- ステップ 3** (オプション) [エンタープライズグループの同期モード (Syncing Mode for Enterprise Groups)] のドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
- [なし (None)] : このオプションを選択した場合、Cisco Intercluster Sync Agent サービスは、IM and Presence サービス クラスタ間でエンタープライズグループおよびグループメンバーシップレコードを同期しません。
 - [差分同期 (Differential Sync)] : これはデフォルト オプションです。このオプションを選択した場合、リモート IM and Presence サービス クラスタのすべてのエンタープライズグループ

プおよびグループメンバーシップレコードを同期した後、後続の同期では前回の同期以降に更新されたレコードだけを同期します。

- [完全同期 (Full Sync)]: このオプションを選択した場合、リモート IM および Presence サービス クラスタのすべてのエンタープライズグループおよびグループメンバーシップレコードを同期した後、後続の同期では毎回すべてのレコードを同期します。

(注) Cisco Intercluster Sync Agent サービスが 24 時間以上実行されていない場合、エンタープライズグループおよびグループメンバーシップレコード全体の同期が確実に実行されるために、[完全同期 (Full Sync)] オプションを選択することを推奨します。Cisco Intercluster Sync Agent が約 30 分間実行されて、すべてのレコードが同期された後は、後続の同期について [差分同期 (Differential Sync)] オプションを選択します。パラメータ値を [完全同期 (Full Sync)] に長時間設定したままにすると、CPU 使用率が非常に高くなる可能性があるため、[完全同期 (Full Sync)] オプションは業務時間外に使用することを推奨します。

- ステップ 4** (オプション) Microsoft Active Directory グループが Cisco Unified Communications Manager と同期される時間間隔を設定するには、[LDAP ディレクトリの設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウの [LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)] パラメータを設定します。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** (オプション) [プレゼンス情報に使用できる最大エンタープライズグループサイズ (Maximum Enterprise Group Size to allow Presence Information)] フィールドに、各グループに含められる最大ユーザ数の値を入力します。1 ~ 200 ユーザの範囲で指定できます。デフォルト値は 100 ユーザです。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

ユーザグループの表示

次の手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに同期する Active Directory ユーザグループを表示できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索/一覧表示 (Find and List User Group)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
検索基準に一致するユーザグループのリストが表示されます。
- ステップ 3** ユーザグループに属するユーザのリストを表示するには、必要なユーザグループをクリックします。
[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。

検索基準に一致するユーザのリストが表示されます。
リスト内のユーザをクリックすると、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

セキュリティグループの有効化

Cisco Jabber ユーザが自分の連絡先リストにセキュリティグループを追加できるようにするには、次のオプションのタスクを完了して、LDAP ディレクトリの同期にセキュリティグループを追加します。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | セキュリティグループフィルタの作成, (7 ページ) | ディレクトリグループとセキュリティグループの両方をフィルタリングする LDAP フィルタを作成します。 |
| ステップ 2 | LDAP ディレクトリからのセキュリティグループの同期, (8 ページ) | 設定した LDAP ディレクトリの同期に新しい LDAP フィルタを追加します。 |
| ステップ 3 | セキュリティグループのための Cisco Jabber の設定, (9 ページ) | 既存のサービスプロファイルを更新して、そのサービスプロファイルに関連付けられている Cisco Jabber ユーザがセキュリティグループを検索および追加できるようにアクセスを提供します。 |

セキュリティグループフィルタの作成

セキュリティグループをフィルタリングする LDAP フィルタを作成します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP フィルタ (LDAP Filter)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [フィルタ名 (Filter Name)] ボックスに一意の名前を入力します。たとえば、syncSecurityGroups です。
- ステップ 4** [フィルタ (Filter)] ボックスに (&(objectClass=group)(CN=*)) と入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[LDAP ディレクトリからのセキュリティグループの同期, \(8 ページ\)](#)

LDAP ディレクトリからのセキュリティグループの同期

セキュリティグループフィルタを LDAP ディレクトリの同期に追加し、新しい同期を実行します。



-
- (注) この手順は、LDAP ディレクトリの同期をすでに設定していることを前提とします。新しい LDAP ディレクトリ同期を設定する方法の詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Import Users from LDAP Directory」の章を参照してください。
-

はじめる前に

[セキュリティグループフィルタの作成, \(7 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [LDAP (LADP)] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、同期されるセキュリティグループから LDAP ディレクトリを選択します。
- ステップ 3 [グループの LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Groups)] ドロップダウンリストボックスから、作成したセキュリティグループフィルタを選択します。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5 [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now)] をクリックして、すぐに同期します。これを行わない場合には、セキュリティグループはスケジュールされた LDAP 同期が次に発生した際に同期されます。

次の作業

[セキュリティグループのための Cisco Jabber の設定, \(9 ページ\)](#)

セキュリティグループのための Cisco Jabber の設定

既存のサービスプロファイルを更新し、そのサービスプロファイルに関連付けられている Cisco Jabber ユーザが LDAP ディレクトリからその連絡先リストにセキュリティグループを追加できるようにします。



- (注) 新しいサービスプロファイルを設定し、それらを Cisco Jabber ユーザに割り当てる方法の詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Configure Service Profiles」の章を参照してください。

手順

- ステップ 1 [サービスプロファイルの設定 (Service Profile Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定を含むヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、Jabber ユーザが使用するサービスプロファイルを選択します。
- ステップ 3 [ディレクトリプロファイル (Directory Profile)] で、[Jabber にセキュリティグループの検索と追加を許可 (Allow Jabber to Search and Add Security Groups)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
このサービスプロファイルに関連付けられている Cisco Jabber ユーザは、セキュリティグループを検索して追加できるようになります。
- ステップ 5 Cisco Jabber ユーザが使用するすべてのサービスプロファイルでこの手順を繰り返します。

エンタープライズグループの制限事項

表 1: エンタープライズグループの制限事項

| 制限事項 | 説明 |
|--|---|
| 複数レベルのグループ分け | 複数レベルのグループ分けは、グループ同期に対して許可されません。 |
| グループ専用同期 | ユーザグループとユーザが同じ検索ベース内に存在する場合、グループ専用同期は許容されません。代わりに、ユーザグループとユーザが同期されます。 |
| ユーザグループの最大数 | Microsoft Active Directory サーバから Unified Communications Manager データベースに最大 15000 のユーザグループを同期できます。各ユーザグループには 1 ~ 200 人のユーザを含めることができます。[Cisco Unified CM IM and Presence Administration] > [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで、正確な数量を設定できます。 |
| ユーザグループの移行 | ユーザグループを組織単位間で移動する場合は、元の単位に対して完全同期を実行してから、新しい単位に対して完全同期を実行する必要があります。 |
| ローカルグループ | ローカルグループはサポートされません。Microsoft Active Directory から同期されたグループのみがサポートされます。 |
| IM and Presence Service ノードに割り当てられていないグループメンバー | IM and Presence Service ノードに割り当てられていないグループメンバーは、プレゼンスバブルが灰色表示されて連絡先リストに表示されません。ただし、これらのメンバーは、連絡先リストで許可されるユーザの最大数を計算する際に考慮されます。 |

| 制限事項 | 説明 |
|--|--|
| Microsoft Office Communications Server からの移行 | Microsoft Office Communications Server からの移行中は、ユーザが IM and Presence Service ノードに完全に移行されるまで、グループエンタープライズ機能がサポートされません。 |
| LDAP 同期 | 同期の進行中に、[LDAP ディレクトリの設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウで同期オプションを変更しても、既存の同期は影響を受けません。たとえば、同期の進行中に同期オプションを [ユーザとグループ (Users and Groups)] から [ユーザのみ (Users Only)] に変更しても、ユーザとグループの同期はそのまま継続されます。 |
| エッジ経由のグループ検索機能 | エッジ経由のグループ検索機能は、このリリースで提供されますが、完全にテストされているわけではありません。そのため、エッジ経由のグループ検索のフルサポートは保証できません。フルサポートは今後のリリースで提供される予定です。 |
| Cisco Intercluster Sync Agent サービスの定期同期 | Microsoft Active Directory でグループ名またはグループメンバー名を更新すると、定期 Cisco Intercluster Sync Agent サービス同期の後でしか Cisco Jabber 連絡先リストが更新されません。通常、Cisco Intercluster Sync Agent サービスの同期は 30 分ごとに実行されます。 |

| 制限事項 | 説明 |
|--|---|
| LDAP 設定内の別々の同期アグリーメント経由のユーザとユーザグループの同期 | <p>ユーザとユーザグループが同じ同期アグリーメントの一部として Cisco Unified Communications Manager データベースに同期されている場合は、同期後に、Cisco Unified Communications Manager データベースで、想定されているようにユーザとグループの関連付けが更新されます。ただし、ユーザとユーザグループが別々の同期アグリーメントの一部として同期されている場合は、最初の同期後、ユーザとグループはデータベースで関連付けされないことがあります。データベース内のユーザとグループの関連付けは、同期アグリーメントが処理される順序によって異なります。ユーザがグループより前に同期された場合は、データベース内でグループを関連付けに使用できない可能性があります。その場合は、グループとの同期アグリーメントがユーザとの同期アグリーメントより前にスケジュールされるようにします。このように調整しない場合は、グループがデータベースに同期された後、次の手動同期または定期同期後にユーザがグループに関連付けられます。</p> |